

常議員会議長席から

熟議によって担保される審議結果の正当性

常議員会議長 津村 政男 (37 期)



今までのところ、常議員会には、オンライン出席者を含め毎回多数の常議員の出席を頂いている。オンライン出席の制度ができたことは、リアル出席が困難な常議員にも出席の機会を与える良い制度であると思う。欠席で済まず、オンライン出席することに、出席者の熱意を感じるところである。

また、本年度執行部は、毎回、会務活動を丁寧に常議員に報告し会務情報の共有に努めているほか、審理の時間短縮に拘らず、多様な意見に裏打ちされた熟議を望んでいる姿勢が見られ、好ましい。

常議員もこれに呼応し、議案によるが活発な議論を行っている。発言者の数は会務歴のある役員経験者が多いが、初めて就任した中堅常議員や若手新人常議員が発言してく

れると、新たな気づきもあり、審議に深みを増すことになる。議案に対する反対意見も貴重であり、多様な意見を聞かせて、議論を深化させ、熟議によって得られた審議結果は、正当性を担保されるものとする。

議長としては、執行部からは分かりやすい議案の説明を、また、常議員からは多様な意見を導き出すべく努めてきたつもりであるが、今後も同様に努めるつもりである。

ある会合で役員経験のある常議員とご一緒したときに、本年度の常議員会の感想を聞いたところ、これまで何回か常議員を経験してきたが、議長がこんなに発言するのは初めてと言われた。複雑な思いであるが、今後もこれまでのスタンスを変えずに議長職を務めていきたいと思う。

副議長席から見える風景

常議員会副議長 町田 正裕 (45 期)



「数える度に雷鳴がとどろく、数えるのが大好きな某英語教育番組のカウント伯爵のように、出欠賛否を正しくカウントし、審議の円滑かつ公正な進行を補佐します」との就任宣言はもろくも崩れ去った。出欠は事務局が教えてくれるし、決議はだいたい全会一致だ。皆さん事前準備で決議事項の趣旨をよく理解していて、出てくる質問は適切だし、意見は委員会経験者などによる趣旨が明解で正確な補足が多く、全く審議の邪魔にならない。さすが会員の代表者たち。勉強熱心で真面目だ。

そんなわけで副議長は寡黙だ。「本日の出席者数〇〇名、定足数に達しております」で、その日の発言は終わる。大勢の前で発言したのは、大運動会での万歳三唱くらいだ（これも議長に差し支えがあったから）。

しかし、何もしていないわけではない。進行案をチェックし、事前の正副議長会議では適切円滑な審議に資するための意見を（たまに）述べ、当日は常に会場をキョロキョロ見渡し（会場は広い）、リモート参加のモニターをチラチラチェックして（遠近両用眼鏡は必須だ）、決議に瑕疵がないように密かに静かに注意している。

そうすると、壇上からは常議員の様子が実によく見える。発言者を睨む人、パソコンを注視する人、腕組みをして考え込む人、そして深く頭を垂れている人。

いずれにしても、我が会の常議員会は、多くの構成員の努力（それも無償の）により、極めて正常に機能していると言える。それは端から見ている大きな感銘を覚えるほどだ。会員の皆様も、どうか安心されたい。